



おめでとう

阿部茂幸さんに全国体育指導委員功労者表彰

阿部さんは、10年以上にわたり体育指導委員を務められ、淡路地区会長や兵庫県副会長も歴任。地域のスポーツ振興に貢献されています。

森崎文明さんに社会教育功労者表彰

育功労者表彰(青少年教育)が、森崎文明さん(福良)に贈られました。森崎さんは、元国立淡路青少年交流の家職員で、

由井花子さんに地域文化功労者表彰

退職後も外部指導員として、海洋学習の指導と安全確保に携わり、長年にわたり、青少年の健全育成に尽くされました。

阪本栄治さんにもしびの賞

阪本さんは、淡路だんじり唄振興会会長や淡路素義審査会、淡路人形協会役員も勤め、地域の伝統芸能継承に務められています。



▲だんじり唄を熱唱する愛好グループの皆さん

元気な唄声響く 南淡路だんじり唄交流会
壇尻を持たない団体のだんじり唄交流「第13回南淡路だんじり唄交流会」が12月7日、10団体が出演して、今年3月に閉校する志知高校で開かれました。子どもの元気な唄から指導者の熟練の唄まで、老若男女の唄声が体育館に響きわたり、会場からは大きな拍手が送られていました。「岸壁の母」の演目で出演した志知高校郷土芸能部もOBとの共演で感情のこもった熱演を見せていました。



▲練習に励む三原・淡路三原高校郷土部員



▲石碑の除幕式に出席した地元関係者の皆さん

世界に飛ばたく淡路人形浄瑠璃
淡路人形座と三原・淡路三原高校が海外公演へ
芸能として、海外からの人気も高く、昭和33年から述べ23回にわたり、海外公演を行い、地元の方々とは文化交流を行ってききました。交流は今も続き、今回フランスを訪れる三原・淡路三原高校は、過去に淡路人形座が訪れたのがきっかけでした。交流が新たな交流を生んでいます。
12月、高校生たちは「日本の伝統文化をしつかりと伝えたい」と練習に励んでいました。

論鶴羽古道の石碑を建立
登山シーズン前に
灘黒岩水仙郷の開園に合わせ多くの登山客が訪れる、論鶴羽神社前に「論鶴羽古道」を示す石碑が建立されました。高さ160cmの石碑には、「論鶴羽古道」を上部に表示し、表参道(灘黒岩)と裏参道(論鶴羽ダム・牛内ダム)の入り口までの距離が表示されています。
11月23日、山開きの神事に併せ、神社役員約20人が出席

登山シーズン前に

する中、石碑の除幕式が行われました。翌24日には、黒岩自治会の方により、論鶴羽古道の清掃も行われました。
論鶴羽山は、平安時代から明治以前まで修験者の霊場として栄え、古道は、世界遺産の「熊野古道」に並ぶ信仰の道として、また地域の人々の生活の道として活躍。現在、近畿百名山などに選定され、登山やハイキングの道としても注目を集めています。市のホームページで、登山道のパンフレットを掲載しています。

淡路人形座と三原・淡路三原高校郷土部の2団体が、このほど海外公演を行います。
三原・淡路三原高校は、1月5日から10日間、フランスのパリ市とクロミエ市で公演。淡路人形座は2月10日から約1か月、アメリカとカナダの主要都市で公演します。
淡路人形浄瑠璃は、国の重要無形民俗文化財に指定されており、日本を代表する伝統

昔ながらの「だるま窯」で焼き芋
津井幼稚園児が山田脩二さんと交流



▲だるま窯の前に、山田さん(左奥)と園児たち

瓦産業がさかんな津井地区では、かつて瓦を焼く小型の「だるま窯」が200基ほど点在していました。しかし近年の大量生産に伴い、大型のガス窯が主流になり、その姿が見られなくなっていました。この窯を復活させようと、昨年2月から、山田脩二さんから地元の瓦師20人が、製作を進め、昨年4月に完成させました。薪で一昼夜、焼き上げることにより、焼きムラができ、昔ながらの独特の味わいのある瓦が生産できます。
山田さんは、日本を代表す

る写真家として活躍後、昭和57年から津井に移り住み、瓦師へと転身。現在は瓦業界の振興のため多方面で活躍されています。
12月3日、地元・津井幼稚園児38人を招いて、瓦を焼いた後の余熱で作った焼き芋を振舞いました。昔はこの窯で芋や餅を焼いて食べられたことがあり、ほのかに木の香りがする焼き芋は、中までしつとりとやわらかく、絶品。園児は「おいしい」と喜んで食べていました。山田さんは「産地の子どもにとって、こんな思い出も印象深く残るので」と笑顔で話していました。

広報朗読テープ300号
ボランティア活動25周年の西淡C・M・C

西淡C・M・Cは、カラオケ愛好家が集まって結成されたボランティア団体です。佐藤繁俊さん(松帆)を会長に21人のメンバーは、25年もの間、自慢の声を活かして、老人ホーム訪問や市の広報朗読テープ作製のボランティア活動に取り組みられています。広報紙の朗読では、地域の目の不自由な方々にとって、有意義な情報を選び、聞き取

りやすい表現に配慮して毎月録音されています。
90分テープA面には、広報の朗読を、B面には、ふれあいコーナーとして、施設訪問の様子録音されます。
12月2日、松帆活性化センターで、広報12月号の朗読で300号記念となる収録が行われました。この日、8人で朗読箇所を割り振ったあと、心待ちにしている人たちの姿



▲広報を朗読し、テープに録音

冬季の農作業
レタス・白菜・玉葱
市内各地で現在、玉葱の定植やレタス・白菜の収穫、出荷が盛期を迎えています。玉葱の定植では、手植えから「移植機」を導入する農家が増えました。レタス収穫では、人手で1球ごと丁寧に収穫されたレタスを自動で包む「包装機」など、機械化による省力化が進んでいます。昨年秋には雨がが多く、野菜の植え付けに苦労がありましたが、12月のレタスの市場価格は良く、正月以降も農家の皆さんは、他の野菜にも期待を膨らませながら農作業に励まれています。



▲一球一球丁寧に収穫されるレタス(市善光寺)

献上した人を表彰する「としびの賞」。このほど、だんじり唄指導者の阪本栄治さん(阿万)に贈られました。
阪本さんは、淡路だんじり唄振興会会長や淡路素義審査会、淡路人形協会の役員も勤め、地域の伝統芸能継承に務められています。

永年、淡路人形座で淡路人形浄瑠璃の保存と継承に尽力されている由井花子(芸名:竹本友喜美)さん(福良)に文部科学大臣から地域文化功労者表彰が贈られました。

文部大臣から科学功労者表彰(青少年教育)が、森崎文明さん(福良)に贈られました。森崎さんは、元国立淡路青少年交流の家職員で、